

SUMMARY

徳島経済

vol.113【要約版】



\本文はこちら/



表紙写真
鳴門市 板東俘虜収容所跡地
(ドイツ村公園)

このたび、徳島経済研究所は機関誌「徳島経済 vol.113」を発行しました。
詳細については、「徳島経済」本誌をご覧ください。

●座談会●

大学経営者が語るこれからの徳島

国立大学法人徳島大学 学長 河村保彦 氏
学校法人四国大学 理事長 佐藤一郎 氏
学校法人村崎学園徳島文理大学 理事長 村崎文彦 氏
公益財団法人徳島経済研究所 専務理事 里 正彦

進学を機に地域を離れる若者が増えるなか、徳島県は大学進学時の地元残留率が 36.5%と四国で1位、全国でも18位と高い水準を維持している。学生たちに「学び、働き、住む場所」として徳島を選んでもらうためにはどのような点が重要となるのか、経営者の目線で現状の取り組みと今後の展望についてお話いただいた。

● Report 研究員による調査レポート ● ～特集：人口減少を考える 2～

県内自治体における 2050 年までの人口動態分析：年齢構成と地域維持の展望

(担当 兼子知世)

県内では 2050 年にかけて、総人口の減少と少子高齢化が同時に進む自治体が多い。「社会減」が「自然減」を加速させていく傾向にあるが、一部自治体ではこれを是正しようとする動きも見受けられた。世代間人口バランスを適正に保つことが地域の維持につながる。

若年層の流出と地方の未来 2～県内出身女性の地域移動に関するヒアリング調査結果～

(担当 近藤有紀)

女性や若者の流出の背景を探るため、県内出身の若年女性 17 人とリターン者 4 人にヒアリング調査を実施した。県外に出て初めて徳島の良さを再認識する者が多いが、都市部との雇用環境の差や無意識の偏見がリターンを阻む。給与や休日数などの改善に加え、多様な価値観や選択肢を地域で育む必要がある。

女性の継続就業による M 字カーブの解消 ～仕事と家事・育児の両立をめぐる状況について～

(担当 瀧川めぐみ)

1985 年の徳島県女性の労働力率は M 字カーブを描いていたが、2020 年では結婚や出産後も継続就業する女性が増え台形へと近づいた。女性の継続就業には男性の家事育児参加が欠かせない。性別役割分担意識の改革や長時間労働の是正等、性別問わず誰もが働きやすい環境を整える必要がある。

——徳島バス(株)協力—— 人口減少とこれからの路線バス需要

(担当 青木伸太郎)

徳島バス(株)から路線バス乗降データの提供を受け、バス停ごとの乗降客数を地図上で町丁・字別の将来推計人口と重ね、可視化した。今後 15 年間の人口減少で路線バス需要は約 1/4 減少する。データを活用し、次の交通網を構築していく必要がある。

●トピックス●

ガンバレ! がんばれ! 徳島ガンバロウズ!! ～初参戦での活躍と 2 年目の飛躍にむけて～

(担当 蔭西義輝)

昨シーズン、B3 参入 1 年目ながらプレーオフ準決勝まで勝ち残った「徳島ガンバロウズ」。ホームゲーム入場者数はシーズン後半にかけて右肩上がりとなるなど、ファン層は着実に拡大している。2 年目となる 2024-25 シーズンの飛躍を祈念し、開幕から現在までの軌跡をまとめた。

●寄稿●

電池の話

(技術顧問・工学博士 西池氏裕氏)

電池（バッテリー）についての全体像を解説し、徳島県の「バッテリーバレイ構想」とリンクして、電気自動車（EV）等で使用されるリチウムイオン電池に焦点を当てる。また、徳島県のバッテリー産業育成の産業戦略についても考察する。

公益財団法人 徳島経済研究所

TEL(088)652-7181/FAX(088)625-3818

当研究所 HP(<https://www.teri.or.jp/>)にて全ページ閲覧できます。

冊子をご入用の方は、ご連絡ください。